

高校の総合学習における問題解決型プログラムの効果

○中口毅博(芝浦工業大学)

キーワード：総合学習、環境意識、高校、問題解決型学習、ESD

1. 目的と調査方法

本報告は愛媛県内子町の内子高校2年3組40名を対象に行った問題解決型地域学習プログラムの効果について把握したものである。表1に示すように講義→現地ヒアリング(以降班別作業)→提案作成→発表という流れで11回の授業を行い、通常の方法で行った1組と2組の78名と社会・学習意識(表2)と社会人基礎力(表3)に差が生じたかを、アンケートによって5段階で自己評価してもらうことで把握した。前者については、社会人対象に行った6種類の環境学習講座の受講者(回収数170)とも比較した。

2. 結果

3組の社会・学習意識を1・2組と比較すると(図1)、3組の方がコスト感以外のすべてで果が現れており、社会人と比較すると責任感、有効感、コスト感で効果が現れている。一方社会人基礎力を1・2組と比較すると(図2)、傾聴力以外のすべてで果が現れているのがわかる。

表1 授業のスケジュールと内容

回	月	日	時限	方法・内容
1	6	14	4	【講義】水に関するエコ行動
2	6	17	1	【講義】社会と水とのつながり
3	6	20	7	【実習】ヒアリングの準備
4・5	7	3	3・4	【実習】現地ヒアリング
6	7	11	7	【実習】現地ヒアリング結果のまとめ
7	11	18	1	【実習】水を生かした取り組み提案を考える
8	2	14	7	
9	3	7	6	【実習】発表練習
10・11	3	14	5・6	発表会

表2 社会・学習意識の評価スケール

1	自分の住んでいる町の社会状況は深刻だと思う【危機感】
2	自分の住んでいる町をよくすることは自分にも責任があると思う【責任感】
3	自分が地域について学ぶことは、よりよい町にしているために役立つと思う【有効感】
4	地域について学ぶと、他の勉強にあてる時間がなくなってしまうと思う【コスト感】 ※評価点は反転した
5	先生や保護者や地域の方々から、自分が地域について学ぶことが期待されていると思う【規範感】

表3 社会人基礎力の評価スケール

NO	自己評価内容
1	教員の指示を待つのではなく、自らやるべきことを見つけて積極的に取りくめた【主体性】
2	失敗を恐れず行動に移し、粘り強く取り組むことができた【実行力】
3	「ここに問題があり、解決が必要だ」と気づくことができた【課題発見力】
4	既存の発想にとらわれず、課題に対して新しい解決方法を考えることができた【創造力】
5	自分の考えをわかりやすく整理した上で、相手に理解してもらうように的確に伝えることができた【発信力】
6	相づちを打ったり適切なタイミングで質問するなど、相手の話しやすい環境をつくり、相手の言葉を引き出すことができた【傾聴力】
7	自分のやり方に固執するのではなく、相手の意見や立場、年齢などを尊重し行動することができた【柔軟性】
8	チーム内で自分の役割を理解し役割を果たすとともに、自分の役割でないことも必要があれば臨機応変に支援することができた【状況把握力】

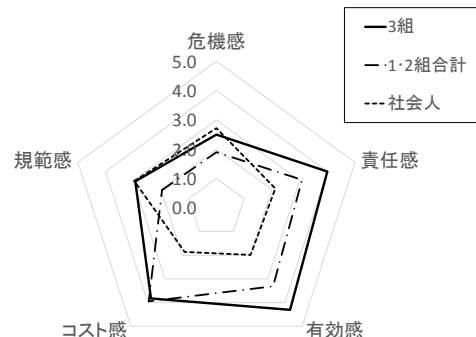


図1 社会・学習意識の評価結果

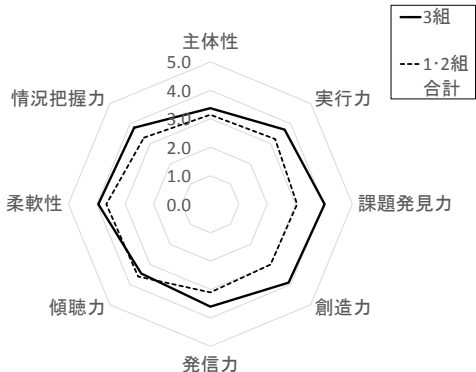


図2 社会人基礎力の評価結果